

がんの経験を  
ともに語り  
生きる知恵を  
育み支え合う場

## ”ともいき京都” 名称の由来

がんを体験した人が、同じ京都という町で共に息し、  
意気を持ち、粋\*に生きる。  
そして、いつかは共に逝く者であることを思いつつも、  
支え合って生きることができるように願って、  
「ともいき京都」と名付けました。

\*粋とは、京都の庶民の生活から生まれた美意識です。



# 代表挨拶

## introduction

『ともいき京都』の活動を始めました。『ともいき京都』がここで根づいていきますように、多くの方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

私が見舞ったところ、Kさんはそれまでとは別人のように穏やかな表情で「みんなよくしてくれる。ありがたい」と何度も感謝の気持ちを語られました。こんなに短時間でKさんを変化させたホスピスの力に圧倒されつつも深い関心を抱き、数年後にはホスピスの扉を叩くことになりました。

あれから25年余りの月日が経過しました。目覚ましいがん治療の進歩により、多くのがん体験者が地域社会で生活する時代となりました。しかし一方では、約4割が再発・転移など再び治療が必要な状態であることも歪めません。抗がん治療の効果が期待できない病期になると、医師より「これ以上の治療の手立てはありません。これからどうされますか？」と尋ねられ、ガイドラインに基づく選択から、ガイドラインなど存在しない「あなたはどうか生きるのか/生きたいのか」という生き方の選択を迫られることとなります。患者は自分の置かれている状況に気づきながらも直視できず、「なぜ私なのか」「迷惑をかけてばかりだ。早く死にたい」などの言葉を周りに向け続けます。人生の最終章に向かってこうした言葉を発せずにはいられない患者の苦悩はいかばかりでしょうか。患者の呻きを聴くたびに、がんと共に生きるために必要なことは、単に苦痛を和らげたり選択できたりすることではなく、がんと共にどう生きていくのかについて考える力であると身をもって感じてきました。そのためには、がん体験者ががんと診断された時に身に着けた生きる力を見つめなおして、さらに育んでいくことが必要だと思ってきました。

2015年7月10日より、多くの仲間の熱い思いとそこに集うがん体験者の秘めた力を対話によって結果として、生きる力を育み支え合うコミュニティを創りたいと願って『ともいき京都』の活動を始めました。『ともいき京都』がここで根づいていきますように、多くの方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



ともいき京都代表  
田村 恵子

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻  
臨床看護学講座 緩和ケア・老年看護分野  
教授 / がん看護専門看護師

1997年のがん看護専門看護師を取得。  
わが国における専門看護師のパイオニアの一人である。  
また、わが国における末期がんに対するホスピスケア（緩和ケア）の草分けである大阪市・淀川キリスト教病院で27年間看護師を務める。2014年1月から現職。

ホスピスでがん患者を最後まで看取り、家族の看護にも取り組む姿がNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で2008年に放映され、反響を呼ぶ。  
2012年には「奇跡のホスピス～人生の"わすれもの"ってなんですか?～」（MBS制作）主人公・田辺礼子のモデルとなる。

著書に「余命18日をどう生きるか」（朝日新聞出版）、  
「看護に活かすスピリチュアルケアの手引き」（青海社）  
などがある

# 活動紹介



## がん体験者自身が 企画するイベント



がん体験者が本来持っている生きる力を発揮して、周囲の人々と共に生きる知恵を育むことができる場として、がん体験者自身がイベントを企画しています。これまでは、カラーセラピー、工芸、コミュニケーションに関するイベントを行っています。随時受け付けていますので、スタッフにお気軽にお声かけ下さい。

## 生きる力を 育むイベント



生きる力を育むために、様々なイベントを開催しています。タッチケアやアロマセラピー、ミュージックセラピーなどの癒し、ヨガや体幹の筋肉を整えることによる体力維持、栄養教室など、それぞれの専門家が講義や実技を担当しています。各イベントは、生き抜くための知恵を得るだけでなく、参加者同士の対話の輪の広がりネットワークづくりにつながっています。

## 生きることへ 向き合う語り合い



ともいき京都の活動の中心は、「生きることへ向き合う語り合い」です。「語り」「対話」「相談」をキーワードとして、「がん患者自身が体験を語る」「グループで対話する」「専門職に相談する」3つの場を提供しています。また、京都で暮らす小児がん体験者が定期的集まることのできる場としても活用されています。

🌸 開催日  
月2回(第2・第4金曜日)  
14時30分から20時まで  
開催しています。

🌸 会場  
「風伝館」にて開催。  
地下鉄烏丸線  
丸太町駅より徒歩5分  
※詳しくはP.9  
風伝館のご案内ページを  
ご覧ください。

## ともいき京都の主催メンバー



梅田 恵

1987年京都市立看護短期大学卒業、2000年がん看護専門看護師認定(日本看護協会)、2014年聖路加看護大学院修了し看護学博士、2014年11月より昭和大学大学院保健医療学研究科教授、昭和大学病院で臨床にも携わる。NPO法人CNJ理事、NPO法人水度坂友愛ホーム理事。もっと暮らしの近くで看護の力が発揮され、困難なときであっても豊かに生きる力を見つめていきたいと思えます。



梅田 史世

20歳の頃から看護師をさせて頂いています。15年前より、人生の先輩の方々が「生きててよかった」と穏やかな日々を過ごせるように、また、ご家族の方々が「生きてもらってよかった」と悔いのないお見送りが出来ればと、介護事業所を始めました。

しかし、2年前に「がん」と診断され、なんで私かと思いつつ、自分に与えられたことであり、しっかりと受け入れ、今をしっかりと生きようと、手術、抗がん剤治療を受けました。今、生かされているのは、多くの方々との関わり、自分を受け入れて頂ける場所があること等が元気の元ではと考えるようになりました。がんサバイバーとして自分に出来る事は何かを考え「ともいき京都」に参加させていただいています。よろしくお願ひいたします。



鈴木 直美

1990年公認会計士二次試験合格し現あずさ監査法人に入職。1998年KPMGヘルスケアジャパン業メンバー。2007年米国ミシガン大学MBA、MHSA。2010年(株)GCI(訪問看護ステーション芍薬)を起業し代表取締役就任。田村代表の強い思いと高い専門性、プロの心意気、そして田村代表を支える皆様が心をひとつにしている姿に感銘し、参画を決意しました。ともいき京都では私の専門性を活かし、永続的な活動を可能とする組織作りに貢献したいと思っています。

1997年より淀川キリスト教病院ホスピスにて勤務。2011年大阪大学大学院医学研究科保健学専攻がん看護専門看護師コース修了。同年、がん看護専門看護師資格認定。以降、がん相談支援センターに勤務し、診察室や病室以外の場で患者と家族の声を聴く。現在、臨床の場を京都に移し、京都大学医学部附属病院にて勤務。医療施設内に留まらず、地域社会の中で患者・家族・親しい人達と、がんによりよく生き、お互いを支え合えるコミュニティの創造に貢献したいと思えます。



市原 香織

私は、総合病院で5年間がん患者の方のケアに携わらせて頂き、一昨年に京都大学大学院に入学し、現在は院生をしています。私は、ともいき京都という場所が、がんを体験された方の経験が知恵として育まれる場、また、その知恵が多くの方に発信される場となり、より多くの方の人生が豊かになることを願っています。そのために、私は皆様と一緒に貴重な体験を知恵としていけるよう、研究を通して、その方法を形にしていけたらと思っています。



近藤 めぐみ



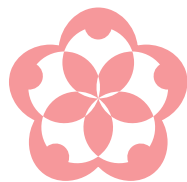
## ともいき京都 ミッション

重層的な市民文化を育んできた京都で、  
がんと体験した人が、生きる力を発揮して知恵を育み、  
周りのいのちと共に生き、支え合うネットワークづくりをめざします。

## ともいき京都 ビジョン

- ❖ ともいき京都は、がんと体験した人が、  
体験を生き生きと語れる場を創ります。
- ❖ ともいき京都は、がんと体験した人が、  
生きる知恵を生み出せるように対話を拓きます。
- ❖ ともいき京都の活動を通して、がんと体験した人が、  
社会の一員として、生きがいを持てることをめざします。
- ❖ ともいき京都の活動を通して、がんと体験した人が、  
他の人との交流を深め、地域に貢献できることをめざします。

## ともいき京都 ロゴ・デザイン



ロゴ・デザイン  
坂本 春香  
田中 梢

日本人みんなに愛され、人間の内面の美しさを表している桜の花をモチーフとしました。一つ一つの花びらを人と見立てて、周囲の桜型の縁取りは「ともいき京都」に集う人々が、支え合い・共に生き・手をつないで輪になっていることを表しています。

## ともいき京都 組織概要

### | 事務局所在地 |

〒600-8199  
京都府京都市下京区万屋町342  
ガーデンコート河原町907  
緩和ケアパートナーズ事務局内

### | ホームページ |

<http://tomoiki-kyoto.net>

### | 代 表 |

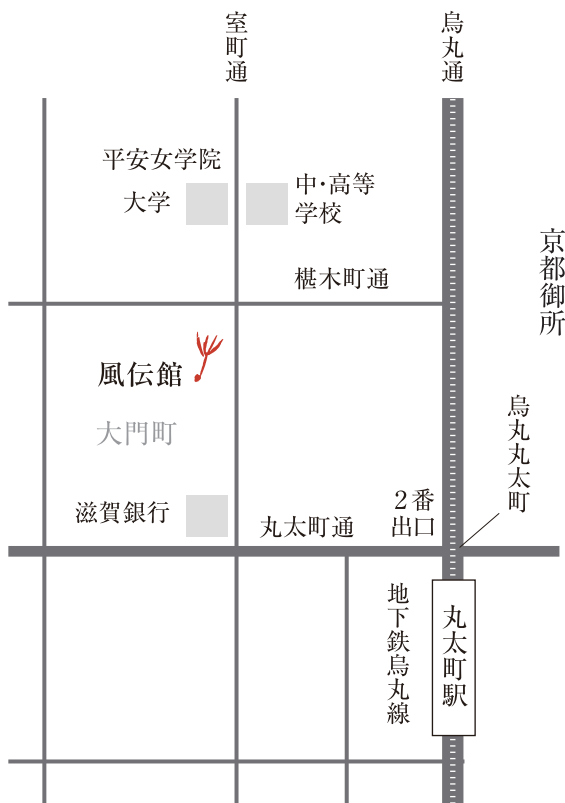
田村 恵子





# 風伝館 のご案内

住所  
〒602-8024  
京都府京都市上京区室町通丸太町上る大門町253番地



## 寄付のご案内

ともいき京都の活動は、がんの体験者と家族、親しい人々、専門職などのボランティアなど、活動に参加下さる皆さまのご支援によって支えられています。

ともいき京都の活動にご支援下さる方々の思いをご寄付としてお預かりし、様々なイベントやプログラム企画・運営のために活用させていただきます。

お力添え賜りますよう、お願い申し上げます。

ご無理のない金額を、下記の要領でお手続きください。  
お振り込みの際は、郵便局備え付けの振替用紙(青色)のご利用が便利です。

### お振り込み先

- ・ ゆうちょ銀行
- ・ 口座番号 00250-6-102836
- ・ 加入者名 ともいき京都

振替用紙をご利用にならない場合は、お手数ですが、下記ホームページお問い合わせフォームに [お名前・ご住所・ご寄付金額・お振り込み日] を記入の上、ご連絡下さい。

ご寄付に関するお問い合わせは、下記のホームページの  
[お問い合わせフォーム] にご記入下さい。

<http://tomoiki-kyoto.net>

「風伝館」は、  
築約150年の京町家を  
改装した  
コミュニティスペースです。